



インスピレーションになるう

RI 会長テーマ

2018~2019 年度

大船渡西ロータリークラブ会報

七福人



会 長 浜田 浩誠

副会長 木下 彰則

幹 事 菅野 嘉洋

＝会長指針＝

初心を忘れず、寛容の心で

よりよい奉仕を進めよう

．．． 例 会 記 録 ．．．

8月第4週例会 2018年 8月23日(木)

ソング : 奉仕の理想 ボックス : 34,000円 (報告者 山口ひとみ会員)

お客様紹介 : 仙台青葉 RC 大江勝男様

本日出席率 : 67.31% 前回修正後100% (メークアップ 21名) (報告者 三田地大悟会員)

★ お客様の大江勝男様より



濱守年度の月信に掲載された、地区内クラブの3・11被災状況について私なりに集約し、国際大会のブースに展示させて頂きました所、大きな反響を得ましたので感謝を伝えるにお邪魔しました。

★ 会長の時間 浜田浩誠会長



ロータリーの指導理念は、親睦と奉仕であります。地区大会も IM も全て親睦と奉仕を指導理念として営まれます。ロータリーの例会も親睦と奉仕という形を採っています。即ち、例会時間の内、最初の30分は、食事をしながら親睦を暖める時間であり、後の30分は、奉仕に耳を傾ける時間即ち、卓話の時間です。したがって、例会の最初から最後まで在席して始めて例会に出席した事の意味があります。

ところが、近年、規定審議会では例会出席についての60%ルールなるものが出来たために、卓話の始まる前に退席するロータリアンが多いのであります。これでは親睦だけのロータリーになってしまっていて、奉仕に耳を傾ける時間がなくなってしまいます。これは60%ルールの本来の趣旨を誤解するものであります。60%ルールというのは、例会に出席した場合に、それが出席と認められるためには、例会時間の60%は在席していなければならないと言うだけのことであって、例会とは、本来、最初から最後まで100%在席するものなのであります。ただ、例会中に急用ができて帰らなければならないような場合に、例会時間の60%を経過しておれば、途中退席してもよいと言うだけのことであって、60%在席すれば退席する権利がある、などと言うような筋合いのことではないのであります。途中退席しなければならないことが初めから判っている場合には、例会に出るべきではありません。そのために出席率が100%にならなくてもよいのであります。途中退席をしながら出席率100%などと言うのは、全く意味がありません。

ホームクラブであれメークアップであれ、例会中の急用や急病以外の理由で途中退席をすることは、ロータリアンとして誠に恥ずかしいことと知るべきであります。

ことに、卓話の始まる前に途中退席することは、50%しか在席していませんから、これは欠席であります。にも拘らず、何の恥じらいもなく、当然の如く途中退席をするロータリアンがいるのは誠に嘆かわしいことでもあります。

先般の阪神第1グループのIMは『ロータリーの魅力を探ろう』というテーマでありました。ロータリーを魅力あるものとするためには、まず、ロータリアン自身がロータリーの基本的ルールを守ることから正して行かねばなりません。そうでなければ、ロータリーは形骸化し、衰退するほかないと思うのであります。

◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆

- 1 米山梅吉記念館より
個人善意募金、全国1人100円募金と賛助会入会のお願い秋季例祭の案内と館報が届いています。
秋季例祭：9月15日（土）14時～ 於 米山記念館ホール 締切り 9/5
- 2 2017-18年度ガバナー事務所より 地区大会レポート誌が届いています。
- 3 社会福祉法人成仁会より 成仁会夏まつり運営等への協力に対する礼状と写真が届いています。
- 4 MOA美術館岩手県気仙地区児童作品展実行委員会より
作品展後援と協賛のお願いが届いています。 作品展示 10/11～10/13 表彰式 10/13
- 5 R財団より 確定申告用領収書が届いています。
昨年度寄付頂いた方、本日配布の月信に挟んでおりましたのでご確認ください。
- 6 岩手県事業復興型雇用創出助成金事務センターより
復興型雇用確保助成金の案内リーフレットが届いています。
名札ボックスの所に置いておきますので必要な方はどうぞ・・・

◆◆◆ 委員会報告 ◆◆◆



★ 藤丸数子青少年奉仕委員長

8月26日（日）10時～15時の間 サンリアにおいて東高校 IAC 生等が24時間テレビチャリティー募金の手伝いをしております。会員皆様の募金協力お願い致します。

★ 鈴木秀樹社会奉仕委員長

例会終了後、「育みの像」の清掃を行います。皆様のご協力お願い致します。
昨日会長がほとんど整備して下さい、ほとんどがラフからフェアウェイと変わっておりますので、気軽にご参加ください。

★ 新沼達央職業奉仕委員長

9月11日（火）東高校就職希望者を対象とした模擬面接会を行います。今年度は、管外就職希望者もお願いしたいという事で、面接者数75名と大勢になりましたので、各社から面接官の派遣もお願いしたいと思っております。FAXを流しますので、皆様のご協力よろしくお願い致します。

◆◆◆ 本日のプログラム ◆◆◆

青少年奉仕アワー：藤丸数子委員長卓話



青少年奉仕委員長の藤丸です。本日は「青少年奉仕」について、勉強したことを発表したいと思います。資料はございませんので、そのままお聞きください。
それではよろしく申し上げます。

青少年奉仕は、1923年、セントルイス国際大会で「善良で健全な市民を育てる」青少年奉仕活動が討議され、当初は社会奉仕委員会の小委員会として発足。次時代、青少年育成の重要性から第五奉仕部門と呼ばれたこともある。青少年交換、奨学生、インターアクト、ローターアクト、ロータリー青少年指導者養成プログラム、職業相談指導、ロータリー地域共同体、ロータリー地域社会共同隊、身体障害者の援助、各種野外活動などを通じて才能と熱意を呼び起こし、奉仕と責任感を育てることを目的とする。

指導力養成活動、社会奉仕プロジェクトおよび国際奉仕プロジェクトへの参加、世界平和と異文化の理解を深め育む交換プログラムを通じて、青少年ならびに若者によって、好ましい変化がもたらされることを認識するものである。若い人々の多様なニーズを認識しつつ、よりよき未来をもたらすために彼らの生活力を高めることによって、若い人々に将来への準備をさせることは、各ロータリアンの責務である。すべてのクラブと地区は、新世代の基本的ニーズ（健康、人間の価値、教育、自己開発）を支援するプロジェクトを立ち上げるよう奨励されている。

では青少年交換とはなんでしょう

ロータリー青少年交換は、最も人気のあるプログラムの1つで、国際的な理解を深め、生涯にわたる友情を育むものである。1927年にフランスのニュース・ロータリー・クラブから始まり、ヨーロッパで行われていた交換は第二次世界大戦まで続けられ、戦後の1946年に再び開始された。1939年には、より広範囲での青少年交換が米国カリフォルニア州とラテン・アメリカの間で行われた。それ以来、プログラムは世界中に広がっている。近年では、毎年7,000人以上の青少年がロータリー・クラブや地区主催の交換プログラムに参加している。

青少年交換の価値は、参加する高校生たちだけでなく、ホストファミリー、派遣クラブ受入側の高校、そして地域社会全体にも有意義な体験を与えるものである。青少年交換の参加者は、受入側の学校の同級生に、外国の習慣、言語、伝統、家庭生活について学ぶ素晴らしい機会を提供している。

青少年交換は、青少年にとって、世界の他の地域を目にする興味深い機会と豊かな体験となる。学生は長期交換プログラムを通じて、1学年度間、海外に滞在する。また、数週間あるいは数カ月の短期交換を行うクラブや地区も増えている。

1974年よりR Iの常設プログラムとなった青少年交換は、国際理解と親善を推進するため、すべてのロータリー・クラブに大いに推奨されている活動である。

次にロータリー青少年養成プログラムについてです

年齢14歳から18歳まで並びに年齢19歳から30歳までの若い人のためのR I常設プログラムである。年齢により二つのグループとした目的は、多様なニーズと成長過程に対応できるようにするためである。地区内の若い人々とロータリアンが参加する地区プロジェクトであり、若い人々の、指導者及び善良な市民としての資質を伸ばすことを目的としている。通常はライラ（RYLA）と略称。

目標は、

1. ロータリーが青少年を尊重し、かつ、青少年に関心を抱いていることを一層明らかにすること。
2. 選考した青少年指導者およびその素質のある人に実地訓練を体験させ、責任ある有能なボランティア青少年指導者となる方法を身に付けるよう激励、援助すること。
3. 青少年による青少年への絶えざる、力強い指導を奨励すること。
4. 青少年指導者として地域社会に尽くしている多数の青少年の優れた資質を公に表彰すること。

この活動で、毎年、何千人もの青少年が選ばれ、世界中の地区で開催されるロータリー主催の指導者養成キャンプやセミナーに参加している。打ち解けた雰囲気の中で、14～30歳までの優秀な青少年のグループが、自己開発、指導力、そして善き市民としての資質を高めることを目的に、指導者研修、討論会、感銘を与えるような講演、社会活動といった取り組みがいのあるプログラムに数日間参加する。この行事はその時々に応じて「キャンプ」「青少年指導者養成セミナー」「青少年会議」などの名称で呼ばれる。

1959年、オーストラリアで、エリザベス二世女王の若きいとこ、アレキサンドラ妃に会うために、クイーンズランド州全域から青少年が選ばれたのを機に、このRYLAプログラムが始まった。その時の参加者のホス

ト役を務めたブリスベンのロータリアンたちは、優秀な青少年たちに感心し、毎年若い指導者たちを集めて社会的、文化的、教育的な活動を1週間にわたって行うことを決めた。こうしてRYLAプログラムは次第にオーストラリアやニュージーランドのロータリー地区全体へと広がっていった。

1971年には、RI理事会がRYLAを国際ロータリーの公式プログラムとして採択した。RYLAは、通常、地区の活動として実施されるが、現在では毎年RI国際大会の前に国際RYLAが開催されている。

次にロータリー地域共同隊についてです

ロータリーの多彩な一連の世界的な奉仕活動やプロジェクトに新たに加わったプログラムの1つに、ロータリー地域社会共同隊がある。これまで村落共同隊（あるいは都市部にて社会奉仕共同隊）として知られていた草の根の自助活動プログラムは、村落、近隣、地域社会の生活の質を高める手段として、1986年RIのマット・カバラス会長によって始められた。このプログラムは、しばしば地域に人手は溢れているものの、地域社会の改善という有益なプロジェクトを実施するために人々を動員する手立てがない、という前提に基づいて計画される。

ロータリー・クラブが援助するロータリー地域社会共同隊は、奉仕プロジェクトを実施して自分たちの地域社会の手助けをしたいと願う人々のグループである。ロータリアンが、ロータリー地域社会共同隊に対して専門知識、指導、励まし、組織的構造や物資援助を提供する一方、共同隊の隊員は、自分たちの地域社会を支えるための人手と地域社会のニーズに関する知識を提供する。このように、ロータリー地域社会共同隊は、大きなニーズを抱える地域のためにロータリアンが奉仕する方法となっている。

地域社会共同隊の目的は地域社会の生活状態を改善し、生きる喜びを高揚することにある。その目的を達成するために、地域社会や同胞に対する奉仕の精神をもって活動することを通じて次の目標に貢献するよう地域住民に奨励するものである。

目標としては

個人が各自の村、隣村、あるいは他の地域社会の改善を図ることに責任を持って活動するよう奨励する。

あらゆる有用な業務の尊厳と真価を認識し、そして生活の質の向上を図るため自主自助の活動と共同活動を実施し、地元の文化や地域社会の状況下において、人間の能力を最大限に発揮するよう奨励する。

各ロータリー地域社会共同隊は、善良なる性格と指導者としての資質を備えた少なくとも10人の成人によって構成されるものとする。ロータリー地域社会共同隊の所在する村または地域社会に居住、就職、勉学中の男女なら誰でも隊員になれる。

次にインターアクトについてです

インターアクトとは、ロータリーの提唱する青少年の奉仕クラブである。1962年RI理事会により設置された。最初のインターアクトクラブは、米国フロリダ州メルボルンのロータリー・クラブによって設立された。インターアクト・クラブは、高校生の年代の青少年に、奉仕と国際理解の世界的友好の中で相共（あいとも）に活動する機会を与えている。「インターアクト」という用語は、インターナショナル「国際」を意味する「インタ」とアクション（行動）を意味する「アクト」に由来している。すべてのインターアクトクラブはロータリー・クラブによる提唱および監督を受けなければならない、学校、地域社会、または世界で奉仕プロジェクトを毎年計画しなければならない。

現在、159カ国 468,556人の会員を擁する20,372のインターアクトクラブが活動している。「インターアクター（インターアクト・クラブの会員）」は奉仕プロジェクトを実施しながら、リーダーとしての資質を磨き、実地の体験をすることで、他者へ奉仕することから生まれる満足感を学ぶ。インターアクトの主な目標、青少年が世界中の若者とより広く理解と親善をつくり出す機会を提供することである。

ロータリークラブと地区は、インターアクトの支援にあたり、以下の方策を実施すべきである。

1) インターアクトの成長と継続性を維持するため、その活動を奨励する。

出版物、ビデオ、インターネット、クラブでのプレゼンテーション、その他の方法を活用する。地区インターアクト委員長および地区インターアクト代表が、地区インターアクトの会報を作成する。

2) インターアクトクラブとその提唱ロータリークラブ間の関係を強める。インターアクターの助言者として、

提唱ロータリークラブの会員を任命する。

インターアクターを提唱ロータリークラブの会合に招待し、ポリオ撲滅活動などのクラブの奉仕プロジェクトに参加してもらう。ロータリークラブがインターアクト委員会を任命することを提案する。

- 3) ロータリーについての情報をインターアクターに伝え、その後も生涯を通じてロータリーに関心を持ってもらうようにする。地区ガバナーの月信、「Rotary Leader」、「THE ROTARIAN」、「ロータリーの友」などのロータリー関連出版物をインターアクトクラブに配布する。
- 4) インターアクターが、年齢制限によりインターアクトプログラムに参加不可能となったり、移転したりする場合は、地元のロータリーアクトクラブやほかのインターアクトクラブを紹介する。
- 5) 地区全域のインターアクトクラブが参加する奉仕プロジェクトを立ち上げるため、各インターアクトクラブと相談する。
- 6) ロータリークラブ例会や地区の会合で、インターアクトクラブの活動についてプレゼンテーションをするよう、インターアクターに依頼する。
- 7) クラブおよび地区レベルでインターアクト活動に関与しているロータリアンの貢献を称える。

ということで、今日は青少年奉仕についてお話ししました。終わります。

★ 佐々木幹子会員より



本日のお客様、大江様は私にとってはロータリーの神様です。
ソフトな物腰、ロータリーの知識が豊富で心から支援して下さい。
碁石のカメラロード設置の際も、マッチンググラウンドの申請手続きを丁寧に指導
いただき補助金を獲得、完成させる事が出来ました。
改めてありがとうございます。

= 例会終了後に「育みの像」整備作業 =



= 8月11日に行われた「成仁会夏まつり」 =

